

令和元年度 第7回 小野申人といきいきトーク

と き	令和元年2月25日(火) 19時～20時30分
と ころ	市役所 第2委員会室
テ ー マ	これからの府中市の子育て支援について
出席者	栗生保育所・土生保育所保護者10名 小野市長、唐川健康福祉部長、荻野教育部長、 山田女性こども課長、大川学校教育課主幹

今、府中市でも子育て・教育の点については、重要施策の一つとして挙げさせていただき、進めているわけだが、そうした中、子育てをしている皆さんの意見を聞きながら、今後の府中市政に反映させていきたいと思っている。

市

《病院》

- ・ 府中市内に産院がない。一番近かった塚本産婦人科も廃院され、中国中央病院が一番近いが、車で30分かかる。

産科については、どこの会場もそういう要望は多い。大学や県に要望にしているが、産科医のなり手も少ない状況。産科を一人ではできないので、複数人が必要になる。お願いしているがなかなか叶わない状況。あわせて、小児科も日中は、個人病院や市民病院があるが、やはり夜間になると福山に行ってもらえるようになる。なんとかしたいと思っているが、お願いはしているが、実現できていない。これは申し訳ないところ。

市

- ・ 夜間の病院の受け入れが、#8000に電話をしたら、4カ所くらい病院を案内されるがどこも受け入れてくれない。最後は消防に電話をするように言われたが、電話すると#8000にかけてくださいと言われた。夜間の医療の受け入れを子どもに限らず、大人もお願いしたい。
- ・ 府中市に診察だけでもいいので、夜診してくれるところがあって、指示をしていただけたら親としてはほっとする。

大きな病気や手術を伴うところでは難しいと思うが、総合内科の先生がこの春から来られる。毎日泊まれるわけにはいかないが、最初に、例えば、「すぐ病院に行きなさい」と判断される場合と、「一度寝て、起きてから様子を見ましょう」と言われるだけでもずいぶん違うと思う。その辺も話をしていきたいと考えている。

市

※現在は、小児科医・産婦人科医に自宅から無料でご相談いただけるオンライン相談があります。

## 《保育所》

- ・ 栗生保育所は3歳からしか見てもらえない。0、1、2歳で仕事を復帰する人も多く、自分の職場に連れて行ったり、他の保育所に行かざるを得ない状況で、保育所に2カ所通わせている人が3人いる。送っていくたびに1時間かかります。そのあたりの見直しをお願いします。
- ・ 私立から公立になると、制服が違って、もう一回買わないといけないのが大変。できれば、市内統一の物があれば、家計の面でも助かる。

平成17年度に保育所再編計画を立てた。もともと数が多かった保育所を再編していく中で、新たなサービスとして休日保育や、病後児保育を始めたり、早朝延長を始めたりとサービスの充実をしてきた。

市

平成17年度当時は、公立では低年齢保育をほぼしていなかった。たんぽぽも託児所だった。そういったところで、徐々に認可保育所に変えていった。認可になると、保育の質を上げることで、保育士の数の基準なども厳しくなる。数と質を変えていった経緯がある。現在、認可保育所は16か所あり、事業所保育所は4か所で、0～2歳をみている。人数は少人数だが、地域枠として、地域からも入れる。そして、私立は全て0～5歳までをみている。公立は、広谷と上下が0歳から、下川辺は2歳から、他は3～5歳になっている。栗生、土生は3歳からの保育になっているので、地域の保育所に通えないという現状がありますが、低年齢をすぐにとすることは難しい。ご意見としては、もっともですが、今は難しい。

女  
課

- ・ 福山市では、統一したカリキュラムがあった。それをみて、保育を行っていた。府中市はそれがない。自分で勉強していかなければならず、個人のやる気次第で、がんばれという感じ。もし、統一して子どもに付きたい力が分かるカリキュラムがあれば、小学校に上がるときに、公立と私立の何かしらの差が出てくると思う。なので、教育の面で統一的なカリキュラムがあれば、認可保育所であれば、どこに預けても安心できる。

幼保小連携に取り組んでいる中で、アプローチカリキュラムとあって、保育所から小学校に上がる時のカリキュラムはほぼできあがっている。全くの統一というものではなく、園ごとの特色を持ちながらベースをそろえてということで、全体会議やブロック会議で協議をしながら進めているので、思われている当時よりは進んでいると思う。全体的に全てできていると言われると、まだ、不完全な部分もあろうかと思う。ただ、私立は、特色を持った保育をされている部分もあるので、ベースはあるのですが、やはり、特色を持ったということも必要となる。公立は基本的には同じでやろうと、そういった流れでやってきている。教育委員会のほうでは、昨年度、スタートアップカリキュラムを作っている。

女  
課

- ・ 子どもがダウン症で、初めて保育所に上がる年齢になったときに、市立、私立の保育所を何か所か回ったが、行ったとき、必ず、「うちの子はダウン症だが、受け入れてくれ

ますか」と聞き、「希望されるのであれば、受け入れます。」と、どの保育所からも言われたが、加配の先生が1人付くと決まった後、行きたい私立の保育所に電話すると、加配のつくお子さんについては、予算の関係で、市立しか受け入れられないです。と断られ、疎外感を感じた。

初めは大丈夫と言われた後、受け入れできないと言われるとショックですよ。ごめんなさいね。私立ではしないというわけではないが、基本的には、保育士の配置があるので、公立でお願いしている。ただし、課題と感じているので、検討していきたいと思っている。

女  
課

#### 《公園・広場》

- ・ 栗柄は気軽に遊びに行けるところが少ない。唯一の公園があるが、ぼろぼろ、トイレも汚くて使えない。休日に公園に行ったら、おじいちゃんおばあちゃんが遊ぶスペースにも車を停めて、ゲートボールをされていた。みんなの公園なのでいいのだが、肩身の狭い思いをすることもある。
- ・ 市内に大きな遊具がない。土生のロケット公園にはあるが、遊具と遊具が離れている。トイレに喫煙の跡があるなど子どもの教育に悪いなど思うところもある。
- ・ 以前のポムポムには、外に遊具があった。今は、室内しかない。

ポムポムの隣の広場は、計画ではポムポムができた後すぐに公園を作る予定だったが、平成30年豪雨災害で被災したポムサーキットのある川べりの復旧とあわせ、一体となった広場にするため、これから計画を練るところ。ポムの隣の広場は駐車場としてではなく、遊びの広場として遊具を置き、キッチンカーを呼べるような計画にするよう予定している。

あとは、天満屋の2階に、今までリフレと子育てセンターに分かれていたネウボラを一体化して、相談にのれるようにし、そこに、芝生の広場と遊具を設置しようと考えている。規模もあるが、こういった遊具を置くかということを考えていく。

天気の手配がない場所ができればいいと思っている。

市

#### 《駐車場》

- ・ 図書館の駐車場が狭い。

図書館については、今、タムの裏の駐車場に停めて歩いてもらっているところもある。駅周辺も含め、あのあたりをどうするかという協議も始めている。図書館周辺も駐車場が大変使いにくい状況になっている。そこも含めて検討していかなければならないと思っている。

市

- ・ 栗生保育所の近くを借りていた駐車場を返すことになり、今使っているところは、出入りがしにくく、重機などの出入りもあって危険。

今の駐車場は、月に何度か大きな車が入ったり、土砂を置いたりするので、どうかなのとは言われたが、保育所のためにと協力していただき、やっと確保できたところ。何度も近くに行って探しているが、なかなかすぐに使えるところがない。

#### 《府中市の子育て》

- ・ 他県からこちらに来た。すごく、子育てしやすい場所と思った。きたばかりで、友だちも家族もおらず、2人の子を育てるのにとっても不安だったが、天満屋に行ったときに誘われて、2階のMOMOで話を聞いてもらい、友だちもでき、心の支えになった。ポムポムもすごく良かった。以前にいたところはそんなところがあまりなくて、1人で育てている状態でしたが、こんなにまわりに支えてくれるところがあるところは、ほかにはないと思いました。
- ・ 子育て支援センターをすすめられ行っていた。支援センターの先生方もすごく話やすく、話を真剣に聞いていただいて、気持ちが楽になりました。
- ・ 府中市は子育てしやすい。支援センターも充実しているし、ポムポムも何度も行かせてもらっている。保育所の無償化も早めにしてくださった。でも人が少ない。この前、市の健診に行くと、同じ月に生まれた子どもが10人に満たない。こんなに少ないんだと驚いた。子育てはしやすいはずなのに、なぜだろうと思う。

#### 《小学校》

- ・ いじめとかで不登校になった場合、不登校児童の支援などをくわしく聞きたい。

それぞれケースバイケースにはなるが、学校だけではなく、教育委員会2階のスマイルルームでの支援もある。学校へは通えないが、スマイルルームに通えるお子さんもいる。相談員や指導員がいて、カウンセリングをしたり、中学校3年生までは、そこで勉強をして、そこで定期テストを受けることもできる。学校の先生もそこに面談に来ますし、学校に行けるようになれば、学校に復帰することになる。その指導員や相談員を指導を管轄しているのは、教育委員会になるので、相談事があれば、教育委員会に連絡していただければと思う。

学校での子どもたちのケアは、スクールカウンセラーが各学校を巡回して行っている。全ての学校に配置している。

スクールソーシャルワーカーを県で一人ずつ配置をしてくれているが、府中市はさらに独自でもう一人配置している。また、スクールカウンセラーも4人配置している。いろいろ相談にのれる体制、窓口を持っている。いろいろなお子さんの悩み、お母さんの悩みを相談してもらえればよいようにしている。

- ・ 登下校の事故のニュースを見ると不安になることがある。町内会の見守り隊がいらっしゃるところがあるが、自分の町内会にはないので心配になる。

通学路については、通学路安全プログラムを実施している。平成24年に警察や国交省の組織的なプログラムで、府中市においても、5年前から進めていて、町内会長や学校関係者が集まり、実際、子どもたちがどういった登下校をするのか、どこに危険性があるのかをまとめて、教育委員会(市)のホームページに載せている。対応方針や県道であれば、県に働きかけて、どういう対応をするかというところまでをしている。例えば緑色のカラー表示、歩道、標識など、お金をかけてできるようになってきた。

教  
部

- ・ 参観日は、だいたい昼からになる。私は、午前中しか空いてないので、午前、午後を選べるようにしてほしい。

いいアイデアだと思います。11月最初の「学校に行こう週間」では、朝から下校まで、どの時間を見ていただいてもいい。給食の準備や掃除、なかなか見られないところも見ていただけるようになっている。午前中の姿もぜひ見てほしい。

学  
主

#### 《防災》

- ・ 防災関係で放送をされるが、私の耳からでもかすかにしか聞こえない。もし、逃げないといけないとなった場合、高齢者の場合、聞こえないと思う。

防災無線も昨年の豪雨のときにはすごい雨で内容は聞き取れなかった。そういう場合の緊急避難については、サイレンだけでもいいから鳴らしてくれとおっしゃる方もある。災害の伝え方としては、防災無線で何か聞こえてるなと思われたら、テレビをつけて、テロップを見ていただく、府中市の防災メールに入られている方にはそこから。また、ラジオからも情報が入るようにしている。防災無線も大事な情報伝達の方法の一つ、マスコミ、テレビ、ラジオ、メール、近所や家族の人からの連絡など、いろんな角度から伝えていく必要がある。

市

今日に限らず、相談事やここがこうなったらいいということがございましたら、市役所や教育委員会、保育所の先生を通していただければと思います。今日はありがとうございました。

市